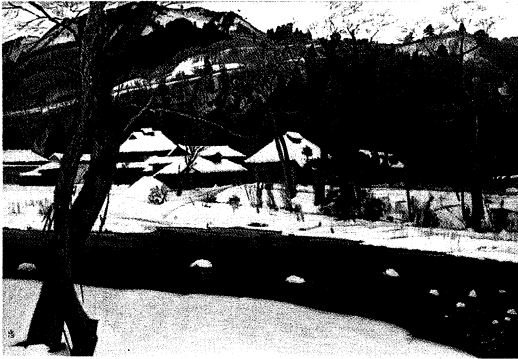


# 『山川忠義の世界』

— 山村の風景と生活を描く —

会期 3月19日(土)～31日(木)  
会場 県立美術館



▲「雪の河畔」 1976年

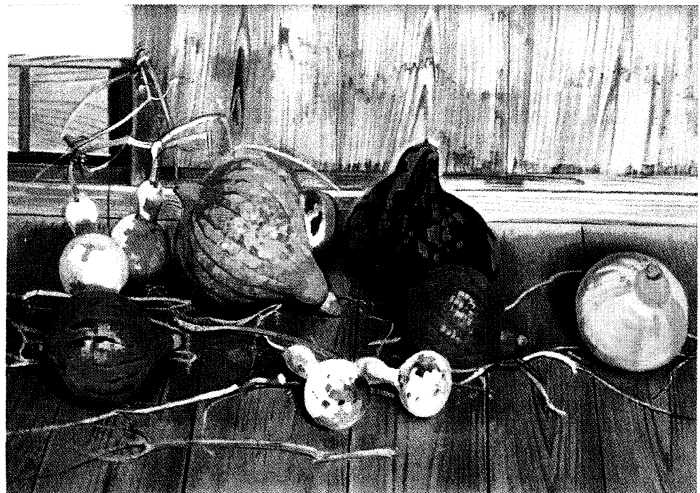


▲「茂庭栗林」 1953年

平成五年度の常設展特集は、福島県を代表する洋画家、山川忠義の没後十年を記念して、彼の画業を振り返ります。

山川忠義は、明治三十六（一九〇三）年福島市茂庭に生まれました。日展審査員の風景画家佐竹徳に師事し、日展や一水会を舞台に活躍しました。その中で、彼は一貫して郷里茂庭の風景を見つめ続け、雪に覆われた林や田野、農家の縁先に置かれた農作物や農機具など、日常的ななにげないモチーフを虚飾の無い筆遣いで、たんとと描き出しています。また、彼は、福島大学教授、福島県図工科教育研究会会長、福島県美術協会会長などを務め、本県の美術教育に貢献したことも知られています。

この常設展特集では、「茂庭栗林」「茂庭雪景」「雪の河畔」「縁先静物」「うす日さす縁先にて」など、本館が所蔵する山川忠義の作品二十五点を一堂に展示し、山川忠義の絵画の世界をご紹介します。



▲「縁先静物」 1953年

### 観覧料

一般・大学生 二五〇円（二〇〇円）  
 高校生 一五〇円（一二〇円）  
 小・中学生 一〇〇円（八〇円）

\*（ ）内は二十名以上の団体料金

### 休館日

三月二十二日(火)・二十八日(月)